

# 東アジア包摂型居住福祉実践に関する比較研究グループ：2016年度研究報告会 兼日本居住福祉学会国際比較居住福祉セミナー



本研究グループは、類似した社会経済的な発展プロセスを経験する中で、いわゆる開発主義的な福祉制度や実践経験を共有してきた東アジア3か国を研究対象に据え、とりわけ居住福祉政策と実践にかかわる海外実地調査を中心に研究を進め、東アジアにおける居住福祉実践モデルの特徴を明らかにするために結成された。居住福祉実践にかんしては、これを先に経験してきた欧米社会を中心に、福祉国家の縮小が進み、ターゲットに絞った支援が行われる中、民間部門による実践モデルが、支援付き住宅、もしくは住宅第一主義モデルの形で登場し、行政施策との関連での検討も課題となっている。本研究グループでは、既存の支援モデルにかんする先行研究から得た知見を基に実地調査を進め、東アジアにおける包摂型居住福祉実践モデルの構築に向けた課題を明らかにする。

今回の研究会では、2016年度中に進めた、韓国ソウル市における実地調査の報告に加え、ソウル市政策担当者による報告会を行い、経験交流の場を設ける。

1. 招へい講演「ソウル市における庶民居住安定のための居住福祉政策の試み」 全 昌美氏(ソウル市住宅政策開発センター・前大阪市大GCOE特別研究員)
2. 「ソウル市におけるホームレス対策：タシギ相談保護センターの実践から」 掛川 直之氏(大阪市大創造都市研究科)
3. ソウル市におけるホームレス対策：タシギ支援センターの施設概要 矢野淳士氏(大阪市大都市研究プラザ兼AKYインクルーシブコミュニティ研究所)
4. 多機能居住型福祉施設の先進性を求めて：認知症老人介護、子どもの養護、放課後ケア棟を併設した一事例 弘田 洋二氏(大阪市大創造都市研究科)
5. ソウル市による社会住宅の実験：住宅供給のオルタナティブを求めて 全 泓奎氏(大阪市大都市研究プラザ)
6. 社会的連帯経済における社会的企業の役割：ソウル市の事例から 水野 有香氏(名古屋経済大学)
7. ビジョン・トレーニング・センターと支援住宅—「居る」と「住む」を重ね合わせる取り組み 綱島 洋之氏(大阪市大都市研究プラザ)
8. 地域における開かれた女性センターの機能と役割 野村 恭代氏(大阪市大生活科学研究科)
9. ホームレス女性への包括的な居住福祉実践の模索～ソウル市・開かれた女性センターの試み～ 石川 久仁子氏(大阪人間科学大学社会福祉学科)
10. 福祉政策をめぐる中央—地方関係：ソウル市『若者手当』を手がかりとして 阿部 昌樹氏(大阪市大都市研究プラザ所長・法学研究科)
11. ソウル市における若者手当の現状と背景 志賀 信夫氏(大谷大学 文学部)
12. 社会住宅としての考試院—考試院リモデリング事業の概念について コルナトウスキ ヒェラルド氏(大阪市大都市研究プラザ)
13. 「多文化な地域社会を展望した実践—ソウル市の事例から」 鄭 榮鎮氏(大阪市大都市研究プラザ)

★開催日時：2017年3月5日(日)16時～19時(終了後、交流会を行います(会費制))

★会場：新大阪丸ビル本館703号室(大阪市東淀川区東中島1-18-5)

アクセス：<http://www.japan-life.co.jp/access.php>

★参加費：無料

★申し込み先：東アジア包摂型居住福祉実践研究グループ

E-ICN-Housing@googlegroups.com

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138大阪市立大学都市研究プラザ 全 泓奎研究室

後援：大阪市立大学都市研究プラザ・日本居住福祉学会



※本研究報告会は、科学研究費基盤研究(B)(海外学術調査)「東アジア都市における包摂型居住福祉実践に関する研究」(研究代表者：全泓奎)の助成を得て実施するものである。

